

平成 30 年度
第 5 回理事会議案書

第 1 号議案 平成 31 年度事業計画の件

第 2 号議案 平成 31 年度収支予算の件

公益財団法人小野寺眞悟障がい者スポーツ振興会

第1号議案 平成31年度事業計画の件

当財団の平成31年度の事業計画案を以下の通り提案いたします。精査のうえ承認を求めます。

I 基本方針

当財団は、平成28年7月25日設立し、公益目的各事業等を着実に行ってまいりました。特に、平成30年7月26日、北海道知事より法人第1280号指令で公益財団法人として認定されました。公益財団法人として、本法人は定款第3条目的において、「この法人は、特別支援学校のスポーツ振興に関する事業を行い、障害のある児童生徒の健全な発達に寄与することを目的とする。」として、その事業を定款第4条で「この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。(1) フットサル等スポーツ活動の普及 (2) フットサル等競技会等の開催・助成 (3) フットサル等スポーツ活動の調査・研究 (4) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業」と明確化し、専ら本道特別支援学校のスポーツ振興に寄与する事業を進めることとしました。

このことを踏まえ、平成31年度は、以下に示す事業計画に基づき事業の推進に努めてまいります。

1 定款第4条1のフットサル等スポーツ活動の普及

- 1-1 スポーツ用品の寄贈
- 1-2 フットサル指導員の派遣

2 定款第4条2のフットサル等競技会の開催・助成

- 1-1 「2019 第3回小野寺眞悟杯北海道特別支援学校フットサル大会」の開催

3 定款第4条3のフットサル等スポーツ活動の調査・研究

- 3-1 スポーツ活動に係る実践研究校の指定
- 3-2 研究成果報告会の開催

Ⅱ 事業計画

1 定款第4条1のフットサル等スポーツ活動の普及

1-1 スポーツ用品の寄贈 予算100万円

定款第4条第1号事業は、平成30年度実績は、全72校を対象に95万円を予算化したが、実績は35校、743,356円であった。

平成31年度は、パラリンピックの推進によるスポーツ活動の活発化が予想されるので、実績の約1.3倍の希望を見込み、100万円を予算化したい。

また平成31年度は、道内特別支援学校から要望のあったフットサルボール及び簡易室内ゴール、ボッチャ用具、ティーボール用具、フロアカーリング用サポートスティック、柔軟性コーナーポスト、水泳用フロートクッションも入れる。

1-2 フットサル指導員の派遣 予算40万円

平成30年度は、400,911円(旅費交通費221,340円、諸謝金165,941円、保険料3,000円、雑費10,630円)の経費で、10校(夢授業1校、フットサル指導員派遣：遠隔校6校、札幌市内校3校)派遣した。

平成31年度は、フットサル指導に限定して、10校(遠隔校7校、札幌市内校3校)を予定し、40万円を予算化したい。

派遣に係る費用は、派遣地までの旅費として、距離1キロメートル当たり30円、宿泊1泊1万円、傷害保険及び吉田順省指導員が休業することに対する休業補償で予算を構成するものとする。

2 定款第4条2のフットサル等競技会の開催・助成

1-1 「2019 第3回小野寺眞悟杯北海道特別支援学校フットサル大会」の開催 予算 350万円

平成30年度は、カテゴリーⅠ(小学部、中学部、高等部を併設している学校)5校、カテゴリーⅡ(高等部単置校)21校、計26校が真駒内アイスアリーナの会場に参加した。

平成30年度の開催総額は、2,843,363円で実施し、遠隔地からの移動助成18校730,765円、宿泊(前泊14校、後泊6校)計129泊1,205,467円、謝金(会場設営、運営役員、審判、大会運営補助・駐車場整理・館内整理、エスポラーダ北海道サテライト等14団体)361,489円、表彰関係123,984円、食糧費(弁当、飲料水)202,116円、印刷費100,000円、保険料35,090円、消耗品31,816円、雑費(ガラス修復)115,401円であった。

平成31年度は、「平成31年1月現在」25校(カテゴリーⅠ中高等部校4校生徒・引率者48名、カテゴリーⅡ高等部校21校生徒・引率者231名、計25校生徒・引率者279名)が参加希望をしている。開催日は2019年8月2日(金)、会場は平成30年度と同様としている。

・平成31年度参加希望カテゴリー1 中高等部校4校

南幌養護学校、平取養護学校静内ペテカリの園、帯広養護学校、釧路養護学校

・平成31年度参加希望カテゴリー2 高等部校21校

高等聾学校、札幌高等養護学校、札幌稲穂高等支援学校、札幌あいの里高等支援学校、千歳高等支援学校、白樺高等養護学校、新篠津高等養護学校、小樽高等支援学校、伊達高等養護学校、函館五稜郭支援学校、北斗高等支援学校、今金高等養護学校、新得高等支援学校、中札内高等養護学校、釧路鶴野支援学校、中標津高等養護学校、市立豊明高等支援学校、市立札幌みなみの杜高等支援学校、函館高等支援学校、美深高等養護学校、小平高等養護学校

平成31年5月に正式な申込みを受ける段階では、数校の増加が見込まれ、30校程度が参加するものと想定し、350万円を予算化したい。

3 定款第4条3のフットサル等スポーツ活動の調査・研究

3-1 スポーツ活動に係る実践研究校の指定 予算60万円

平成30年度は、607,740円を用いて、北海道伊達高等養護学校、北海道今金高等養護学校、北海道北斗支援学校、市立札幌みなみの杜高等支援学校、北海道八雲養護学校に各10万円の研究助成、北海道札幌高等支援学校には「ボッチャ支援に係るランプ作成研究」の事前研究として5万円の助成を行った。また、研究成果等を整理した報告書を300部印刷する。この報告書の表紙等のデザインは北海道八雲養護学校中学部に依頼した。

平成31年度は、5校の実践研究校を指定するとともに、報告書を印刷・配布するため、この事業費用として60万円を予定したい。

3-2 研究成果報告会の開催 予算50万円

平成30年度は、平成29年度実績を踏まえて710,000円を予算化したが、障害児に係る第40回北海道ハンディキャップスキー大会等のかかわりにより、当該報告会開催を1週間早めたことにより、各特別支援学校高等部卒業式実施日と開催日が重なり、参加者が22名になった。

また、本年度より、開催会場を北海道立特別支援教育センター及び北海道札幌視覚支援学校第2体育館を会場としたことから、使用料を削ることができた。

このことから、参加者旅費助成115,720円、フットサル研修講師謝費10,000円、弁当7名分7,000円、合計132,720円で実施する。

平成31年度は、開催時期を3月3週に開催することとして、平成29年度参加者33名、都市間バス及び前泊助成303,840円を基準として、50名参加で都市間バス及び前泊助成約50万円として予算化したい。

なお、平成31年度の開催期日は2020年3月20日(金)を予定する。

第 2 号議案 平成 31 年度収支予算の件

平成31年度の収支予算案は以下の通りです。精査の上、承認を求めます。

正味財産増減予算書

平成31年4月1日から平成32年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	0	0	0
基本財産受取利息			0
受取寄付金	8,000,000	8,000,000	0
受取寄付金			0
受取寄付金振替額	8,000,000	8,000,000	0
雑収益	0	0	0
受取利息			0
雑収益			0
経常収益計	8,000,000	8,000,000	0
(2) 経常費用			
事業費	6,000,000	6,000,000	0
1 スポーツ活動の普及	1,900,000	1,970,000	△ 70,000
支払助成金	1,500,000	1,559,456	△ 59,456
旅費交通費	221,000	100,000	121,000
諸謝金	166,000	250,000	△ 84,000
保険料	3,000	10,000	△ 7,000
会場費	0	50,544	△ 50,544
雑費	10,000	0	10,000
消耗品費	0	0	0
2 競技会の開催・助成	3,500,000	3,530,000	△ 30,000
支払助成金	2,698,000	2,698,000	0
会場費	0	30,000	△ 30,000
諸謝金	296,000	296,000	0
表彰費	100,000	100,000	0
食糧費	205,000	205,000	0
印刷費	100,000	100,000	0
消耗品費	66,000	101,000	△ 35,000
保険料	35,000	0	35,000
3 スポーツ活動の調査・研究	600,000	500,000	100,000
支払助成金	500,000	400,000	100,000
印刷費	100,000	100,000	0
管理費	2,000,000	1,850,000	150,000
役員報酬	270,000	120,000	150,000
給料手当	600,000	600,000	0
旅費交通費	280,000	280,000	0
委託費	235,000	212,000	23,000
租税公課	65,000	50,000	15,000
食糧費	200,000	200,000	0
支払手数料	86,400	86,400	0
通信費	56,800	50,000	6,800
消耗品費	56,800	51,600	5,200
予備費	150,000	200,000	△ 50,000

科 目	当年度	前年度	増 減
経常費用計	8,000,000	7,850,000	150,000
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	0	150,000	△ 150,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
什器備品除却損	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	0	150,000	△ 150,000
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	△ 70,000	80,000	△ 150,000
一般正味財産期首残高	1,336,016	1,256,016	80,000
一般正味財産期末残高	1,266,016	1,336,016	△ 70,000
II 指定正味財産増減の部			
基本財産運用益	0	0	0
基本財産受取利息			0
受取寄付金	8,000,000	55,000,000	△ 47,000,000
受取寄付金	8,000,000	55,000,000	△ 47,000,000
一般正味財産への振替額	△ 8,000,000	△ 8,000,000	0
当期指定正味財産増減額	0	47,000,000	△ 47,000,000
指定正味財産期首残高	50,000,000	3,000,000	47,000,000
指定正味財産期末残高	50,000,000	50,000,000	0
III 正味財産期末残高	51,266,016	51,336,016	△ 70,000